

第6章 滝遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

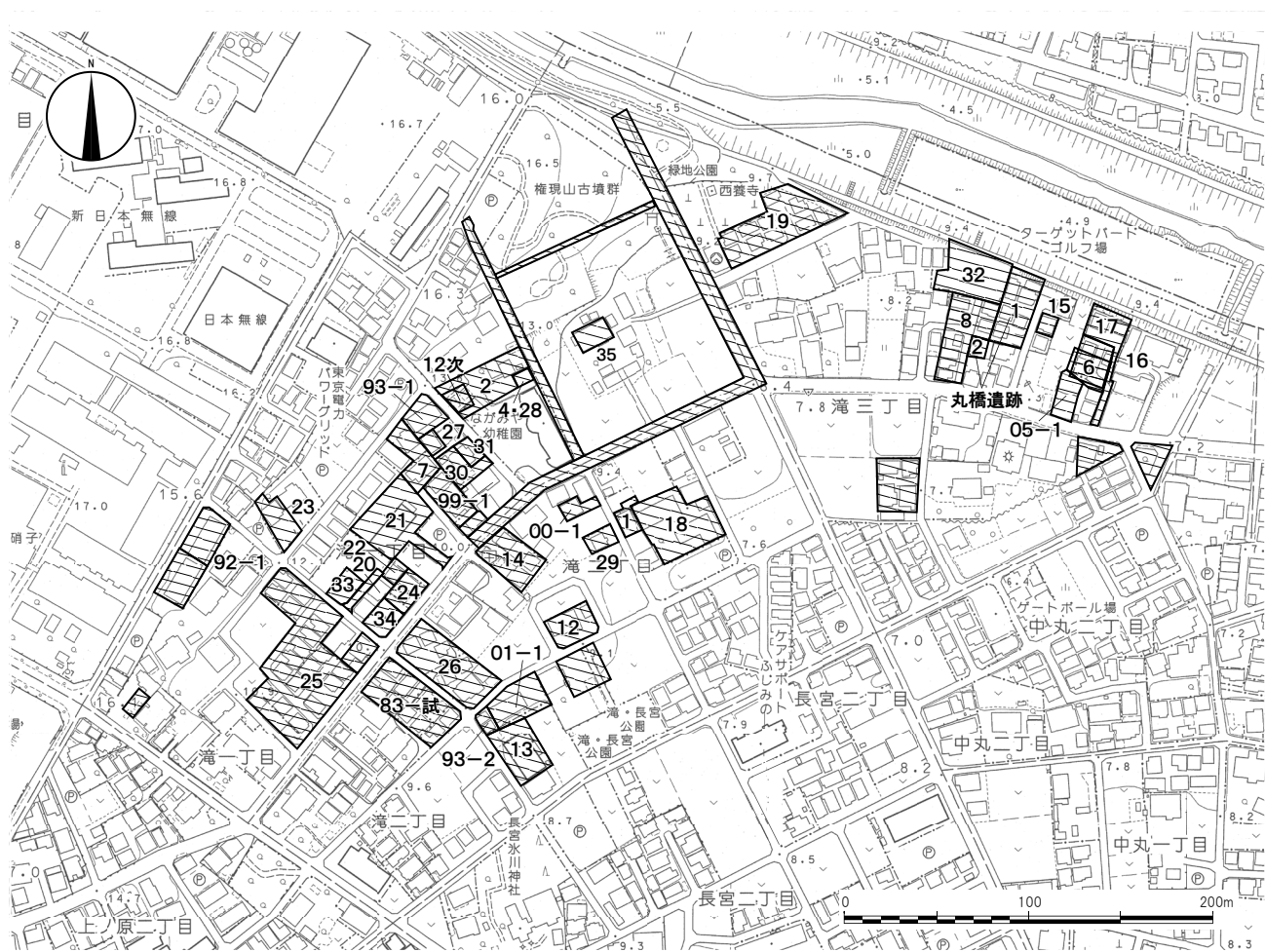
滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250 m、東西500 m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡(1981年の変更増補で滝遺跡と合併)で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来2020年4月現在、41ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査(1)は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

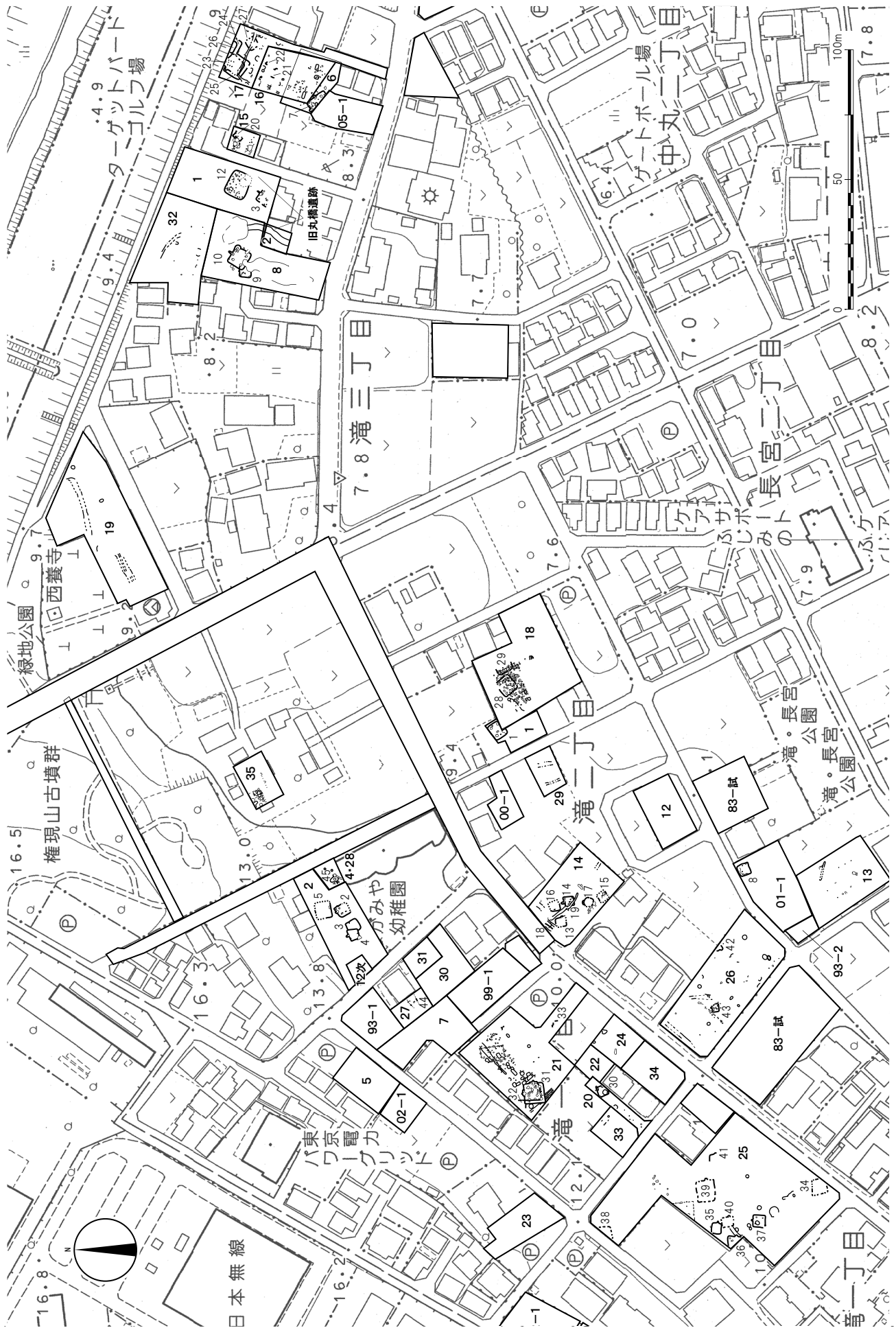
遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構(集石を伴う)である。



第52図 滝遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第 29 表 淹遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ()は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
丸橋 1 次	淹 3-3-77 ~ 81	(1976.6.26 ~ 27) 1976.7.24 ~ 8.12	533.73		分譲住宅	古墳時代住居跡 2、土師器	丸橋遺跡は淹遺跡へ 統合	上調
丸橋 2 次	淹 3-3-13	1978.7.26 ~ 8.6	210		住宅建設	土坑、縄文土器		上埋 I
1 次	淹 2-6-11	1978.10.2 ~ 13	129		住宅建設	古墳時代住居跡 1、土師器		上埋 I
2 次	淹 1-4-2	1979.4.15 ~ 5.7	278		幼稚園 プール	古墳時代住居跡 1、古代住居跡 3、 土坑、墨書土器等		上埋 II
3 次	淹 1-4-15	1980.6.27 ~ 7.3	76		個人住宅	古墳時代住居跡 1、甕	権現山 1 地点へ変更	上埋 III
4 次	淹 1-4-1	1980.7.7 ~ 10	105		住宅建設	遺構なし、土師器		上埋 III
5 次	淹 1-3-21	1980.7.25 ~ 29	330		住宅建設	遺構遺物なし	権現山 2 地点へ変更	上埋 III
6 次	淹 3-3-6	1980.11.19 ~ 11.30	166		住宅建設	古代住居跡 1、ビット、縄文土器 等		上埋 III
7 次	淹 1-1-19	1981.7.30 ~ 31	400		個人住宅	遺構なし、土師器等		上埋 IV
8 次	淹 3-3-15 他	1983.11.14 ~ 26	990		住宅建設	古墳時代住居跡 2、土坑、溝、土師 器等		上埋 VI
83- 試							試掘詳細不明	上埋 VI
9 次	淹 1-4-4	1984.5.11 ~ 22	466		住宅建設	溝、土師器等	権現山 5 地点へ変更	上埋 VII
10 次	淹 1-3-17	1984.6.1 ~ 12	363		住宅建設	古墳時代住居跡 1、土坑、ビット、溝、 土師器等	権現山 6 地点へ変更	上埋 VII
11 次	淹 1-4-2	1984.6.28 ~ 30	33.12		物置	集石、土坑、ビット、陶磁器等	権現山 7 地点へ変更	上埋 VII
12 次	淹 1-4-2	1984.12.22 ~ 24	94		住宅建設	遺構なし、土師器等		上埋 VII
92-1	淹 1-2-14 の一部	(1992.7.6 ~ 8)	400		倉庫	遺構遺物なし		上埋 15
93-1	淹 1-1-4	(1993.4.23 ~ 28)	313.08		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 16
93-2	淹 2-2-7	(1993.8.25)	99		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 16
95-1	淹 1-3-13	(1995.11.27 ~ 30)	462		共同住宅	遺構遺物なし	権現山 14 地点へ変更	上埋 18
99-1	淹 1-1-6	(1999.10.21 ~ 26)	511.09		宅地造成	遺構なし、土師器片等		上埋 22
00-1	淹 2-5-20	(2001.1.23 ~ 24)	154.7		個人住宅	遺構なし、土師器片		上埋 23
01-1	淹 2-2-8	(2001.4.17 ~ 20)	519.64		共同住宅	古代住居跡 1、土師器		上埋 24
02-1	淹 1-3-49	(2002.5.29 ~ 30)	165		個人住宅	遺構なし、縄文土器片	権現山 16 地点へ変更	上埋 25
05-1	淹 3-3-5・143	(2005.6.24 ~ 27)	350		個人住宅	遺構遺物なし		市内 1
12	淹 2-5-3・4 の一部	(2007.2.6)	472	(80)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 3
13	淹 2-2-6	(2007.10.24 ~ 11.1)	737.7	(113)	共同住宅	焼土、土坑、ビット、溝		市内 4
14	淹 2-5-11・17	(2007.11.8 ~ 19) 2007.11.20 ~ 12.6	692	(254) 92	分譲住宅	古代住居跡 7、焼土、土坑、溝、井戸、 土師器等		市内 4
15	淹 3-3-84	(2009.9.2 ~ 14) 2009.10.23 ~ 11.6	100	(50) 52.5	分譲住宅	古代住居跡 1、土坑、ビット、井戸、 土師器等		市内 7
16	淹 3-3-145	(2009.12.2 ~ 14)	434	(129)	宅地造成	古代住居跡 2、土坑、ビット、溝、 井戸、土師器等		市内 8
17	淹 3-3-6・144	(2010.5.6 ~ 6.18)	331	(197)	分譲住宅	古代住居跡 5、掘立柱建物跡 1、集 石、土坑、ビット、溝、井戸、土 師器等		市内 10
18	淹 2-6-4・6	(2011.6.6 ~ 13) 2011.6.14 ~ 7.14	1,164	(124.3) 195.2	個人住宅	古墳時代住居跡 2、掘立柱建物跡 3、 土坑、ビット、溝、井戸、土師器 等		市内 14
19	淹 3-4-2	(2011.10.17 ~ 24)	1,277.16	(369)	分譲住宅	溝、陶磁器等		市内 14
20	淹 1-8・9	(2012.5.9 ~ 11) 2012.5.14 ~ 25	124.45	(65) 20	道路築造	古代住居跡 1、土坑、ビット、井戸、 須恵器等		市内 12
21	淹 1-1-7・26・31	(2012.5.11 ~ 21) 2012.7.17 ~ 8.25	1,176.25	(226) 340	共同住宅	古代住居跡 3、掘立柱建物跡 1、土 坑、ビット、溝、井戸、土師器等		市内 12
22	淹 1-1-40	(2013.7.30)	114	(19)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
23	淹 1-3-5 の一部	(2014.2.12)	371	(38)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
24	淹 1-1-8 の一部	(2014.7.16 ~ 18)	222.8	(85)	分譲住宅	土坑、ビット、土師器等		市内 20
25	淹 1-2-4・32	(2014.7.17 ~ 8.26) 2014.9.8 ~ 10.31	2,804	(1115.8) 362	宅地造成	古代住居跡 8、古代掘立柱建物跡 1、 土坑、ビット、溝、井戸、須恵器 等		市内 16
26	淹 2-5-6・8	(2015.10.19 ~ 27) 2015.11.9・10	368.92	(242) 19.2	個人住宅	古代住居跡 2、落とし穴、土坑、ビッ ト、溝、井戸、縄文土器等		市内 22
	淹 2-5-39・40・41・ 42	(2016.8.24 ~ 9.9)	862.92	(131.87)	分譲住宅			
27	淹 1-1-25	(2015.11.27 ~ 12.1)	155	(29)	個人住宅	古代住居跡 1、ビット、土師器等		市内 22
28	淹 1-4-1・26・27	(2016.9.3 ~ 6)	2,492.15	(25)	幼稚園	古代住居跡 1、ビット、土師器等		市内 24
29	淹 2-5-46	(2016.11.10)	150.41	(34.95)	個人住宅	溝、縄文土器等		市内 24
30	淹 1-1-3 の一部	(2017.2.13 ~ 15)	303	(104.5)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内 24
31	淹 1-1-3 の一部	(2017.2.13 ~ 15)	109	(26.1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
32	淹 3-3-14	(2017.6.26 ~ 29)	784.54	(176.1)	分譲住宅	ビット、溝、井戸、陶磁器等		市内 24
33	淹 1-1-9 の一部	(2018.12.14)	187	(38.15)	個人住宅	ビット群、須恵器等		市内 25
34	淹 1-1-8	(2019.2.20・21、4.12)	333	(95.29)	個人住宅 兼診療所	遺構なし、須恵器等		市内 25
35	淹 1-6-3	(2020.2.17) 2020.2.18 ~ 21	171.83	(85.5) 35	個人住宅	土坑、井戸、地下式坑、板碑、カ ワラケ等		市内 25



第53図 滝遺跡遺構分布図 (1/2,000)

IV 滝遺跡第35地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2019年11月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年2月17日に試掘調査を実施した。

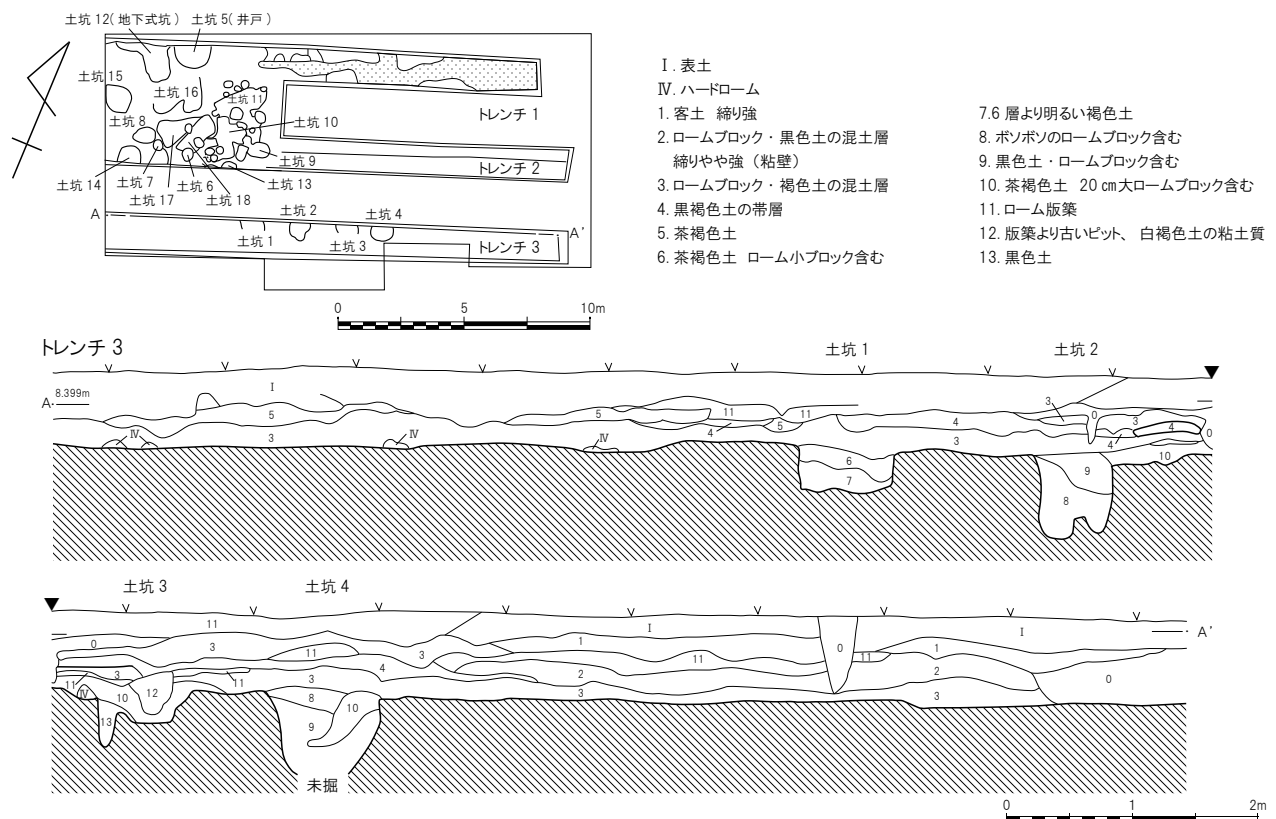
試掘調査は幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約70cmである。

調査の結果、中近世の遺構群と板碑をはじめとする遺物を確認した。保護層の確保が難しいため原因者と再協議の結果、該当部分について本調査を実施することとなった。

本調査は2020年2月18～21日まで実施した。該当箇所を重機で拡張、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

建築工事との関係で物理的に大変窮屈ななかでの調査となった。結果、トレンチ1では約60cm、トレンチ2は65cm、トレンチ3は58cmで遺物出土面に達した。調査期間がわずか4日しか猶予がきかないということもあり、本調査する区域を限定した。そのための見極めとしてトレンチ2、3にサブトレを入れた結果、遺物は確認されたが大型遺構の存在は確認されなかったため、止む無くトレンチ3とトレンチ1・2東側を調査対象から除外した。板碑片が出土したトレンチ1西側とトレンチ2間の南側の約35㎡のごく狭い範囲のみを調査区域として実施した。本調査配置図は第57図である。非調査トレンチは土層セクションをとり、遺物を取り上げ排土置場とした。

トレンチ3(試掘調査)と本調査で確認された遺構はすべて土坑と称し連番を付した。急場の調査現場で付した遺構Noを尊重した。従って、機能が明瞭な井戸や地下式坑、ピット状遺構なども土坑と付し遺構の性格で機能を明記した。(第33表)



第57図 滝遺跡第35地点遺構配置図(1/300)、土層(1/60)

(2) 遺構と遺物

①土坑

図示しえたのは18基のみである。土坑1～4はトレンチ3内で北側土層セクション面で確認されたが部分的調査のみであった。土坑5～18は本調査区域から確認された。(計測値は第33表)ピット状遺構は第58図に深度を記載した。

土坑1(第57図)

トレンチ3の西側寄りから確認された。遺構の壁は垂直に立ち上がる。覆土はボソボソした軟質土が入り込む。遺物は出土していない。時期・性格とも不詳。

土坑2(第57図)

トレンチ3のほぼ中央部から確認された。プランは円形を呈すると思われる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凹凸がある。覆土下層はボソボソのロームブロックを混入する黒色土。遺物は縄文土器細片が2点混入する。時期・性格とも不詳。

土坑3(第57図)

プランは円形を呈すると思われる。底面にピットをもつ土坑で壁は緩やかな傾斜をもって立ち上がる。版築より古い遺構で粘土質の白褐色を含む。遺物は上層からカワラケ細片11点が出土した。土坑の時期・性格とも不詳。

土坑4(第57図)

トレンチ3の東寄りで確認された。プランは円形を呈すると思われる。70 cm以上を掘り下げたが底面までは未掘である。壁は急傾斜をもって立ち上がる。覆土は締り、粘性ともに弱い。ローム粒、ロームブロック(φ20 mm)を混入する。下層は茶褐色土。遺物の出土はない。時期・性格は不詳。

土坑5(第58・59図) 遺物(第60・62図)

調査区の北壁寄りから確認され遺構の北半分が調査区外である。全体像は明らかにし得ないが、プランはほぼ円形でやや開口部が開く筒状の井戸と思われる。東西径1.45 m、南北径は確認径が0.9 m、推定では東西径を超えと思われる。作業安全上深さは1.1 mまでを人力で調査した。調査終了際に遺物と底面までの深さ確認のため重機による深掘りを行った。結果、井戸内の覆土主体層は粘性に富む褐色土で、一度に埋め戻されたように充填されていた。底面は0.6 m程と狭くなり黒色粘土層が出てきた。深さは約2.4 mに達した。遺物は上層から板碑2片(第62図)、瓦質のこね鉢(第60図)が出土した。重機による深掘りで断片と倒立した完形板碑の出土を見た。

土坑6(第58図)

ピット状の土坑である。土坑18と重複するが新旧関係は不明である。遺構プランは楕円形で、底面は狭い。壁はほぼ直に立ち上がり筒状をなす。長径0.53 m、短径0.42 m、深さ0.8 mを測る。覆土は3層で全体として軟質でボソボソしている。遺物は出土していない。

土坑7(第58図)

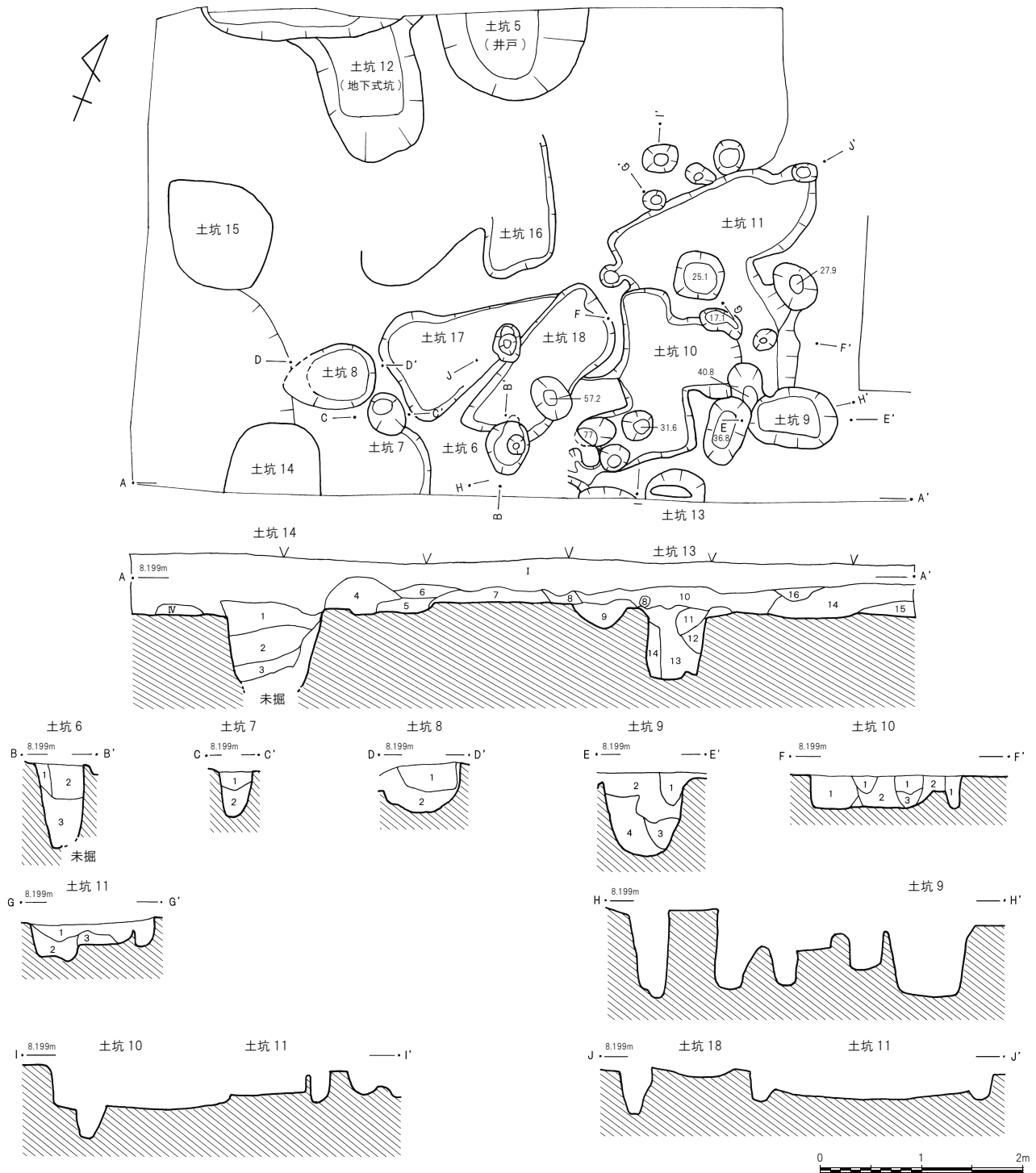
ピット状の土坑である。北側は浅い掘り込みと重複する。遺構プランは楕円形で、底面は狭い。壁はほぼ直に立ち上がり筒状をなす。長径0.45 m、短径0.35 m、深さ0.45 mを測る。覆土は2層。遺物は出土していない。

土坑8(第58図)

遺構プランは楕円形を呈し、底面は丸底状をなし、比較的緩く立ち上がる。長径0.9 m、短径0.65 m、深さ0.45 mまでを掘るが底面までは未掘。覆土下層は締りのある黒褐色土。遺物は出土していない。

土坑9(第58図)

遺構のプランは隅丸長方形を呈するものと思われ、底面は鍋底状をなし、壁は比較的直に立ち上がる。



トレンチ 2 南壁

1. 混土 黒褐色ブロックを含む
2. 黒色ブロックを多く含む
3. 2層より黒色土含む
4. 茶褐色土 ローム小粒子含む
5. 茶褐色土 ローム小ブロック含む
6. 暗褐色土
7. 茶褐色土 ロームブロック含む
8. ロームブロック塊
9. 褐色土
10. 茶褐色土、黒色ブロック含む
11. ガズグズの茶褐色土
12. ボソボソの茶褐色土 ロームブロック混じる
13. 茶褐色土
14. 茶褐色土 ロームブロック・黒色土混じる
15. ローム少し混入
16. 版築

土坑 6

1. 茶褐色土 ボソボソのロームブロック含む
2. 黒褐色土 軟質
3. 暗褐色土 締り強

土坑 7

1. 褐色土
2. 褐色土 1層より暗い

土坑 8

1. 褐色土
2. 黒褐色土 締り有

土坑 9

1. 黒褐色土 ローム多く含む
2. ロームブロックと黒色土の混入
3. 黒色が多い
4. 茶褐色土 ロームブロック塊含む

土坑 10

1. 黒褐色土 ローム小ブロック含む、軟質
2. 茶褐色土 締り有、ローム小ブロック混入
3. 褐色土 締り有、ローム小ブロック混入

土坑 11

1. 褐色土 黒色ブロック含む
2. 褐色土 ローム小ブロック含む
3. 黒褐色土 ローム小ブロック含む

第 58 図 滝遺跡第 35 地点土坑 (1/60)

長径 0.9 m、短径 0.58 m、深さ 0.82 mを測る。覆土下層の大半にはロームブロック塊が入り込む。遺物は出土していない。

土坑 10 (第 58 図)

遺構プランは長方形を呈する。土坑 11、北側で直交する方形土坑及びピット状土坑との新旧関係は不明である。底面は平坦で、壁は直に立ち上がる。長径 1.65 m、短径 0.45 m、深さ 0.35 mを測る。遺物は志野焼皿片、焙烙片・カワラケ細片が出土している。

土坑 11 (第 58 図)

土坑 10 と一部重複する。ほぼ東西に長い方形を呈する。長径 1.8 m、短径 0.9 m、深さ 0.2 m前後を測る。底面は皿状を呈する。長軸側にピットが 2 基穿たれる。遺物はカワラケ細片 3 点が出土した。

土坑 12 (第 58・59 図)

プラン確認段階では地下式坑という認識はなく不整形の土坑としていたが、地下式坑南側の入口開口部から横穴状の主体部へ落ち込む部分までを確認できた。主体部の大半が調査区域外にあるため、全体の形状を確定できないが、おそらくは隅丸方形形状の主体部を持つ地下式坑と思われる。入口開口部は上端で 0.9×1.25 m、下端で 0.65×0.85 m の方形形状を呈する。深さは主体部にかけて傾斜し 0.23 ~ 0.36 m を測る。入口開口部と主体部の連結部で幅は 2.0 m である。かろうじて掘り下げた主体部の深さは 0.8 m 足らずである。覆土中層には落盤した天井部のローム塊が見られた。遺物は入口の開口部プラン直上から板碑断片が出土したのみである。

土坑 13 (第 58 図)

ピット状の土坑であろう。南半分が調査区外に当たる。プランは円形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。長径で 0.65 m、短径 0.33 m、深さ 0.60 m を測る。覆土表層は比較的硬く締まる。遺物はカワラケ細片 2 点が出土した。

土坑 14 (第 58 図)

調査区の南西コーナー寄りから確認された。南半分が調査区外にかかる。プランは隅丸方形形状を呈する。長径 0.95 m、短径 0.7 m、深さは 0.8 m 掘った面で底面に達しないため作業安全上断念した。覆土は黒褐色を帯びグズグズの軟質土が入り込む。遺物は出土していない。

土坑 15 (第 58 図)

調査区の中央西寄りで確認された。プランはほぼ円形をなす。長径 1.25 m、短径 1.0 m。壁は垂直に立ち上がる。深さは 0.5 m まで掘り下げたが未掘である。遺物は出土していない。

土坑 16 (第 58 図)

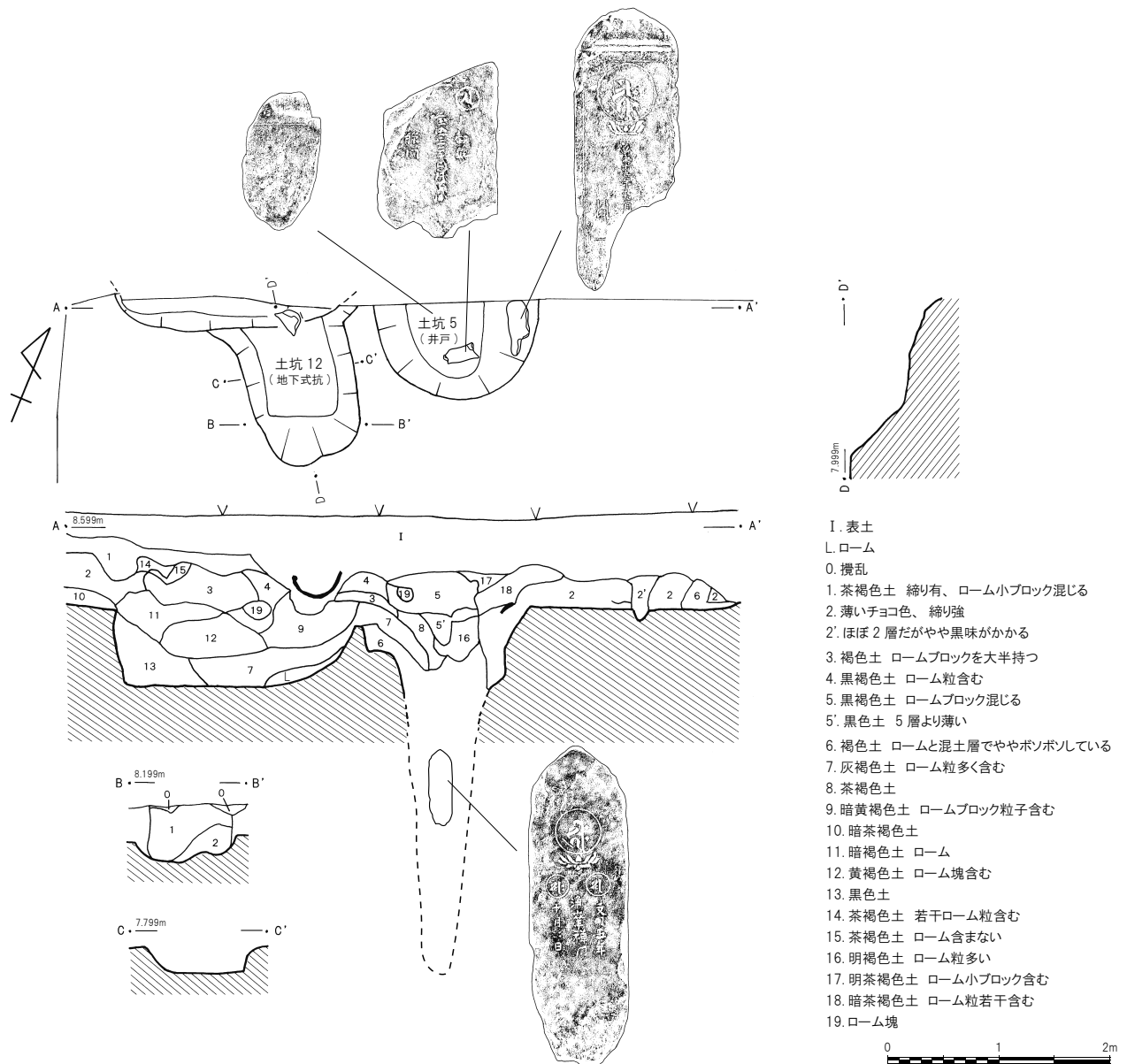
調査区のほぼ中央に位置する。遺構プランは長方形を呈すると思われるが地山への掘り込みが 5 cm 程度と浅く、かつ西壁が不明で全貌が掴めない。長径は 1.25 m、短径 0.75 m。遺物は出土していない。

土坑 17・18 (第 58 図)

両者が重複するようである。土坑 18 が土坑 17 を切るようで重複部に深さ 45 cm のピットが穿たれるがいずれかに伴うかは不明。掘り込みは 0.1 m 未満と浅く、遺構として扱うかどうかとも判然としないが方形遺構の存在を記載しておく。土坑 17 は長径 1.8 m、短径 1.1 m、深さ数 cm 程度である。土坑 18 は、土坑 6 と重複する。遺構はほぼ長方形を呈し、底面は平坦で壁は浅いが直に立ち上がる。長径 1.8 m、短径 0.75 m、深さ 4 ~ 8 cm。遺物は出土していない。

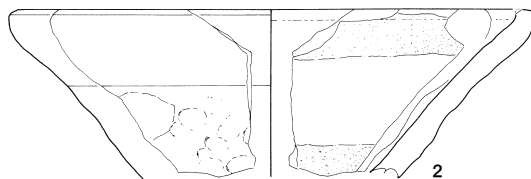
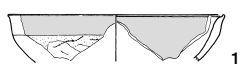
第33表 滝遺跡第35地点土坑一覧表(単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	—	—	—	
2	円形	—	—	—	
3	円形	—	—	—	
4	円形	—	—	—	
5	円形	145 × 90	—	—	井戸
6	楕円形	53 × 42	—	80	
7	楕円形	45 × 35	—	45	
8	楕円形	90 × 65	—	45	
9	隅丸長方形	90 × 58	—	82	
10	長方形	165 × 45	—	35	
11	長方形	180 × 90	—	20	
12	隅丸方形か	125 × 90	85 × 65	23 ~ 36	地下式坑
13	円形	65 × 33	—	60	
14	隅丸方形	95 × 70	—	—	
15	円形	125 × 100	—	—	
16	長方形	125 × 75	—	5	
17	方形	180 × 110	—	10 未満	
18	長方形	180 × 75	—	4 ~ 8	



第59図 滝遺跡第35地点土坑5(井戸)・土坑12(地下式坑)(1/60)

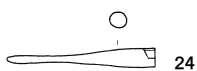
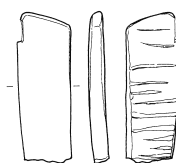
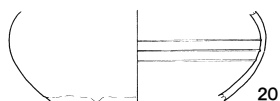
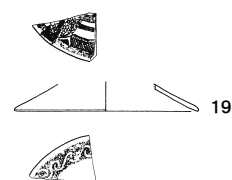
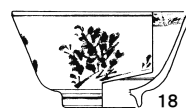
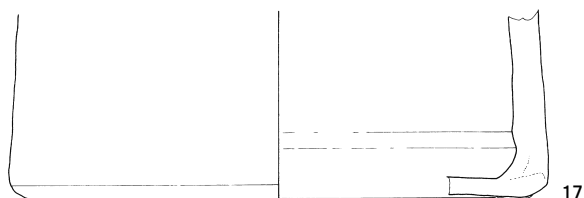
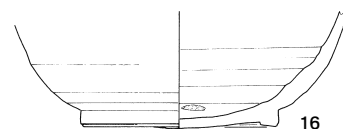
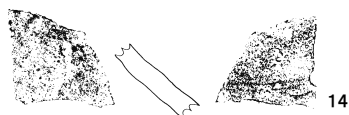
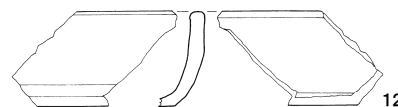
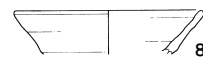
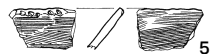
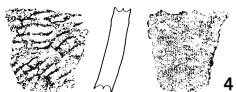
土坑 5



土坑 10



遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm



27



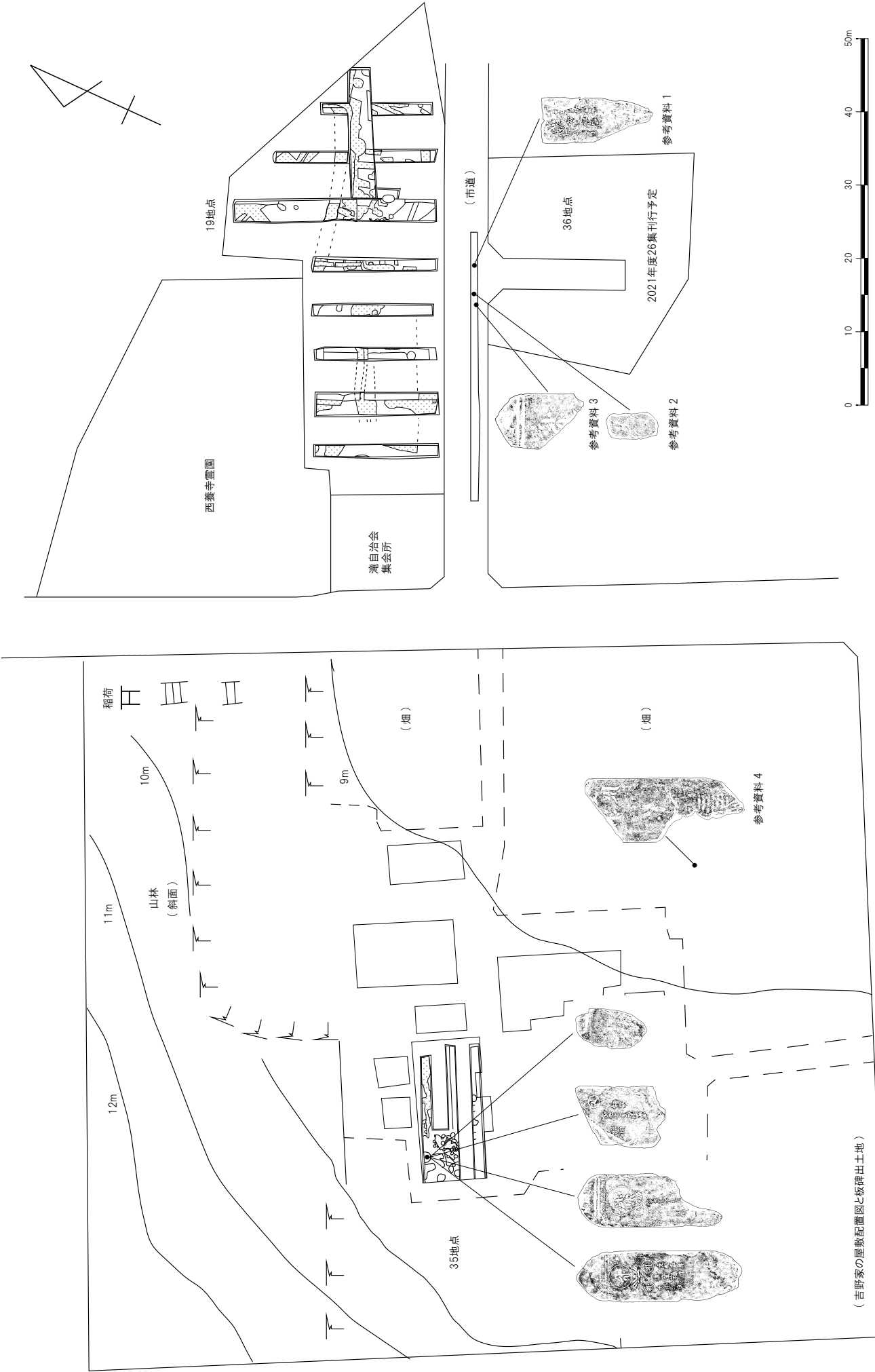
28

0 1 2 3cm

第60図 滝遺跡第35地点出土遺物 (1/4・1/1)

第 34 表 滝遺跡第 35 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

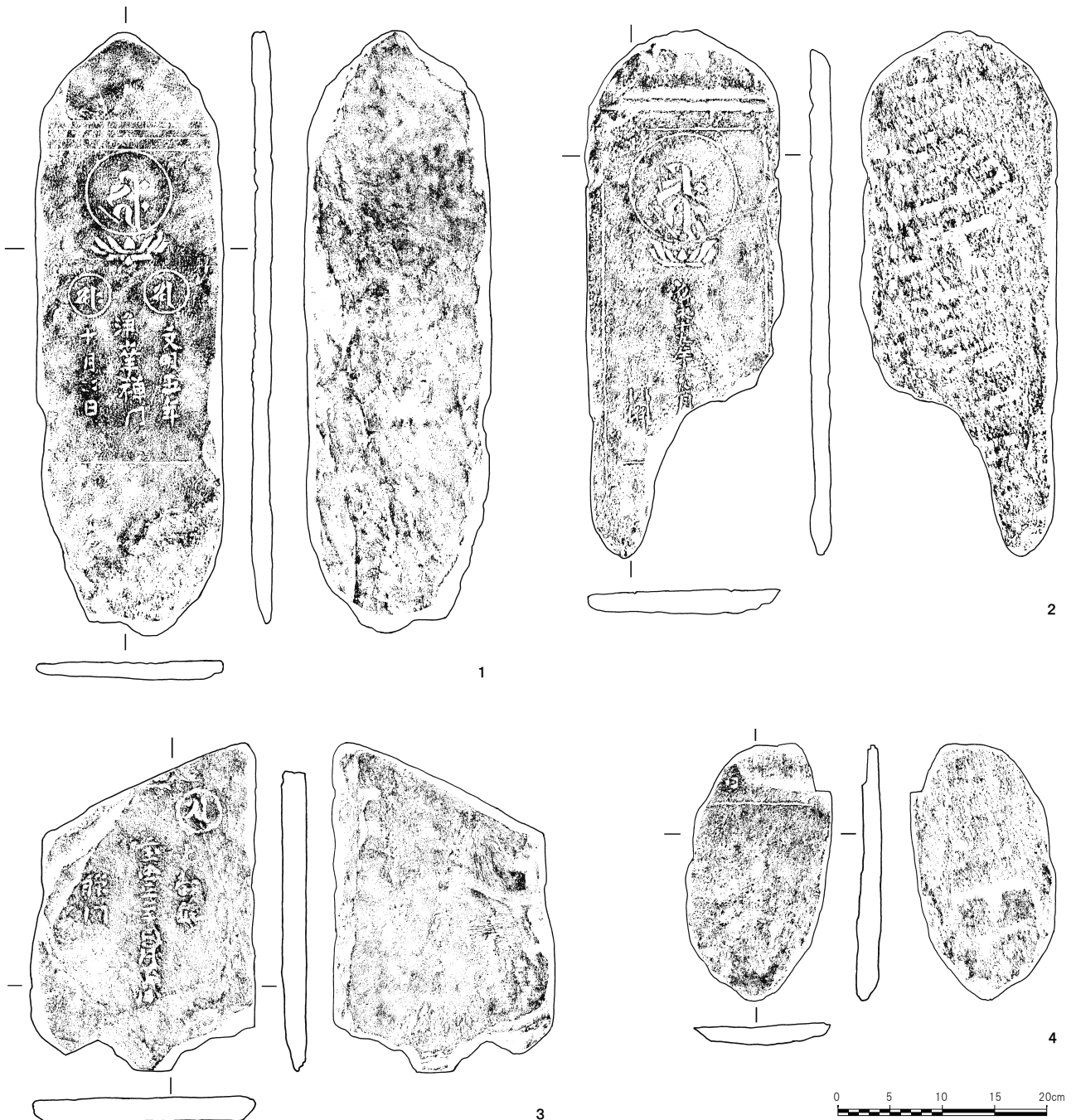
図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 34 表 -1	土坑 5	土師器・坏	11.4	—	(2.5)	—	外面口縁部・内面は赤彩、体部ヘラケズリ	7 世紀末～ 8 世紀初頭
第 34 表 -2		瓦質土器・こね鉢	27.8	—	(8.9)	—	口縁部横ナデ、体部外面指頭押圧、内面口縁部内面と腰部内面は使用による摩耗著しい	14・15 世紀
第 34 表 -3	土坑 10	陶器・皿	11.8	—	(2.2)	—	志野、長石釉	17 世紀 前半
第 34 表 -4	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	(1.0)	—	胴部片、轆轤成形、繊維含む	縄文前期
第 34 表 -5		土師器・甕	—	—	0.5	—	内外面ハケ目、口唇部に浅い刻み	古墳初頭
第 34 表 -6		土器・カワラケ	12.4	8.2	2.9	—	轆轤成形	17 世紀
第 34 表 -7		土器・カワラケ	11.2	5.8	3.8	—	轆轤成形、轆轤左回転	17 世紀
第 34 表 -8		土器・カワラケ	10.0	—	(2.4)	—	轆轤成形	17 世紀
第 34 表 -9		土器・カワラケ	10.8	6.0	2.4	—	轆轤成形	17 世紀
第 34 表 -10		土器・カワラケ	—	6.3	(1.7)	—	轆轤成形、轆轤左回転	17 世紀
第 34 表 -11		土器・カワラケ	—	5.6	(1.6)	—	轆轤成形、轆轤左回転	17 世紀
第 34 表 -12		土器・焙烙	—	—	5.0	—	体部は丁寧に横ナデ	17 世紀
第 34 表 -13		土器・焙烙	—	—	(4.3)	—	胴部下位にちぢれ	17 世紀
第 34 表 -14		焼締陶器・甕	—	—	1.1	—	常滑、甕胴部片	17 世紀 以前力
第 34 表 -15		焼締陶器・甕	—	—	(1.3)	—	常滑、甕腰部	17・18 世紀
第 34 表 -16		灰釉陶器・片口	—	10.5	(6.0)	—	瀬戸、見込みに目痕	18 世紀 初頭
第 34 表 -17		焼締陶器・醬油樽	—	26	(10.0)	—	常滑、回転台整形、鉄釉、底面周辺に砂目	近代
第 34 表 -18		染付磁器・碗	9.4	4.0	5.1	—	轆轤成形。草花文。	1820 年～
第 34 表 -19		染付磁器・蓋	9.8	—	(1.5)	—	瀬戸、飯碗蓋、轆轤成形、内面の連続 S 字文は墨弾き	1820 年～
第 34 表 -20		青緑釉陶器・土瓶	—	13.6	(3.8)	—	胴部片、轆轤成形	19 世紀 前半
第 34 表 -21		染付磁器・茶碗	5.6	3.6	6.3	—	瀬戸、筒形、印刷	近代
第 34 表 -22		染付磁器・水滴	—	—	(5.1)	—	瀬戸、鳥形、型成形	19 世紀 前半
第 34 表 -23		砥石	8.0	2.8	0.9	—	凝灰岩、下端は打ち割りのまま、1 面に鑿痕を残す	不明
第 34 表 -24		キセル	7.8	1.0	0.8	—	吸口、銅製	19 世紀 以降
第 34 表 -25		小柄	6.8	1.3	0.9	—	柄、銅製	不明
第 34 表 -26		火打金	8.3	3.1	0.3	—	鉄製	不明
第 34 表 -27		銅銭	2.6	—	0.8	—	寛永通宝、新寛永	1668 年～
第 34 表 -28		銅銭	2.4	—	0.6	—	渡来銭、□元通報	不明



出土板碑について (第35表)

滝遺跡35地点土坑5(井戸遺構跡)から出土した板碑と併せて、隣接地で発掘調査以外の不時の発見での未報告の板碑についても参考資料として概略する。

井戸内から出土した板碑は4基である。第62図2が井戸東側の落ち際より表面を上にして斜位に出土した。3は南寄り約80cmの深さから2同様、表面を上にして斜位に出土。1と4は重機による深掘り確認された。1は完形である。深さ約1.4mでほぼ直立した状態で出土した。4は断片。1～3は紀年銘が読み取れる。出土深度から判断して1(1473年)→3(1451年)→2(1412年)の順で井戸内に投棄された。いずれも15世紀代造立のもので、高さ約50cm、幅も20cm前後の移動が容易な小型板碑であった。法名も禅門・禅尼や市域では初見の阿闍梨といった僧侶と見られる人物銘が確認できる。この時期の個人銘板碑の盛行を裏付けるものである。法名と元号月日との位置関係が、中央に元号月日、脇に法名があった



第62図 滝遺跡第35地点出土遺物(1/6)

たものが、15世紀後半頃を境に、板碑が供養塔から墓碑的性格へと転化していく過程を語るように中央に法名が刻される例が増加していく。

板碑は13世紀前半に出現し、同後半には広がりを見せ、その後14世紀半ば頃に造立の最盛期となる。市域内の板碑造立推移をみても14世紀半ば～後半にピークを迎え、15世紀代になると減少はするものの存続を維持し結衆板碑造立の画期をなす。16世紀になると衰退消滅し江戸期になると葬送儀礼には墓塔、民間信仰的なものは庚申塔や馬頭観音などの石塔類へと変化していく。

ここ滝地区の新河岸川沿いは板碑分布が27基と市内でも密度が高く、市域の最古、最新の板碑が所在している。35地点東側の川寄りの市道のガス管理設(2020.06.18立会)の際、幅員0.4m、長さ5mの狭小な工事区間内より出土した板碑3基を第63図に参考資料として掲載した。出土した深さは60cm程であった。上層は灰褐色粘土層、下層は茶褐色粘土層で板碑は下層より出土した。35地点は標高9.5m前後でローム層が確認できたが、工事区間は標高8mに下がり、ローム層はなく確認時の現場は浸水していた。

参考資料1は背面を上、3は表面を上に出土した。3基とも掘り込みは確認できなかった。1は生前に死後の安楽を祈願する逆修銘を刻む板碑である。16世紀前半で市域でも最新に分類されよう。3は14世紀の中型板碑で彫りもしっかりしている。推測の域を出ないが、近接して年代幅がある板碑出土は新河岸川の氾濫によるものと考えられよう。板碑以外に瀬戸・美濃の磁器端反碗片(幕末)が出土している。もう1基、参考資料4が吉野公一氏敷地内の35地点より50m南東部の畑から近年耕作中に出土した。幅30cmで、残存高で74cmを測る。有に90cmを越える大型板碑である。紀年銘は磨滅か判読できない。主尊は阿弥陀三尊である。14世紀以前のものであろう。

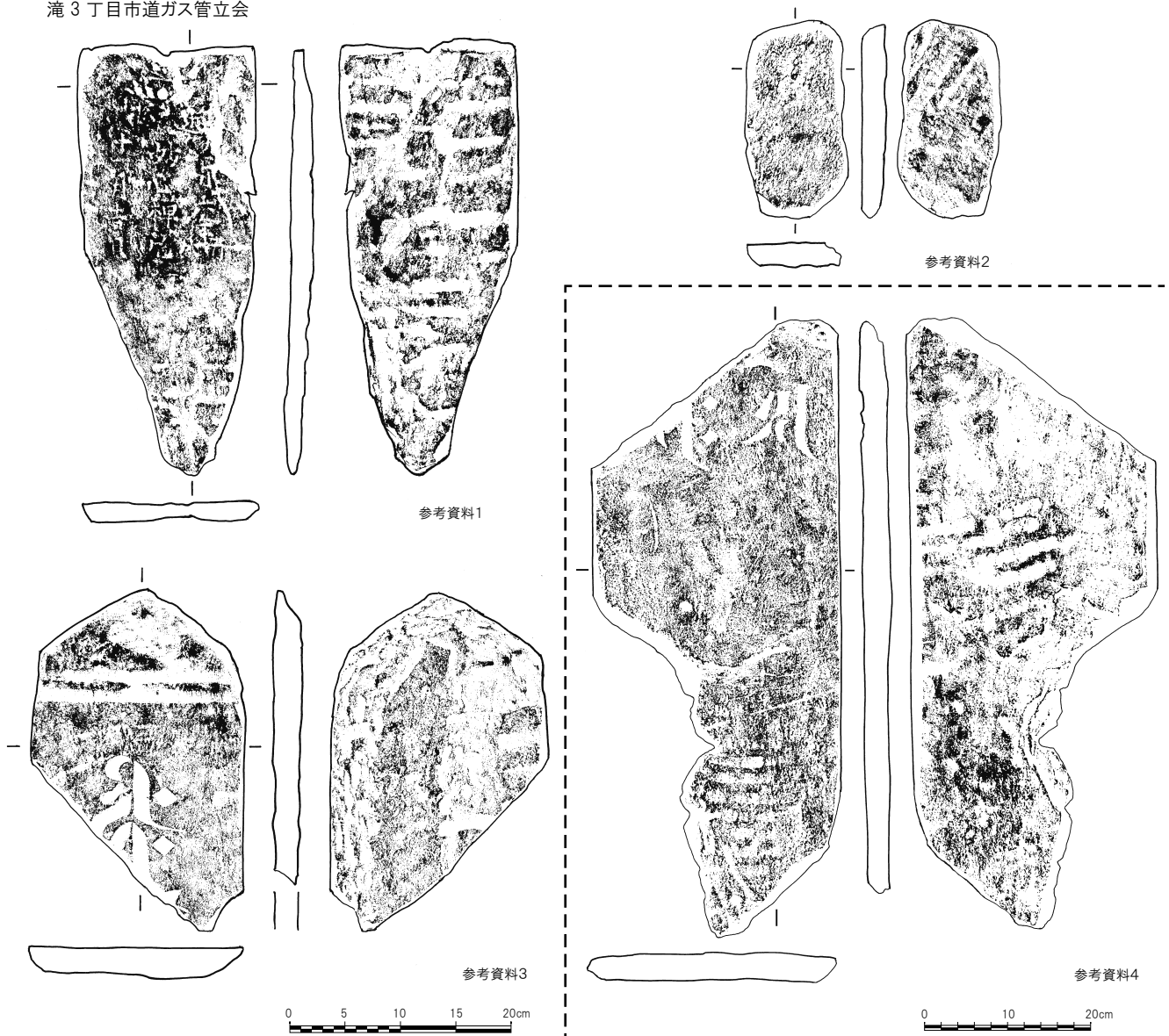
滝の吉野家は、中世文書を所持していた家で、文禄2(1593)年の板碑型の墓碑が西養寺墓地(吉野家墓地)に所在する。中世後期にこの地に土着し、戦国時代には後北条氏の支配下で福岡郷小代官を務め、北条氏滅亡で農民になり、江戸時代全期間を通して川越藩領福岡村の代々名主を務めた。吉野家は、長屋門を構える屋敷に耕地・屋敷地を合わせて九町六畝歩の面積を所有する村一番の高持百姓であった。

近年は、発掘調査による出土板碑の確認数が増加してきている。1981年の県教委による基礎調査で旧上福岡地内で64基、旧大井地内で41基の計105基が報告された。その後、旧上福岡地内で107基増え「上福岡の板碑」(2000年)では171基が報告されてきている。この内、長宮遺跡から47基、鷺森遺跡30基、他に川崎遺跡から5、滝遺跡、城山遺跡から各2基の計86基が発掘による出土板碑である。

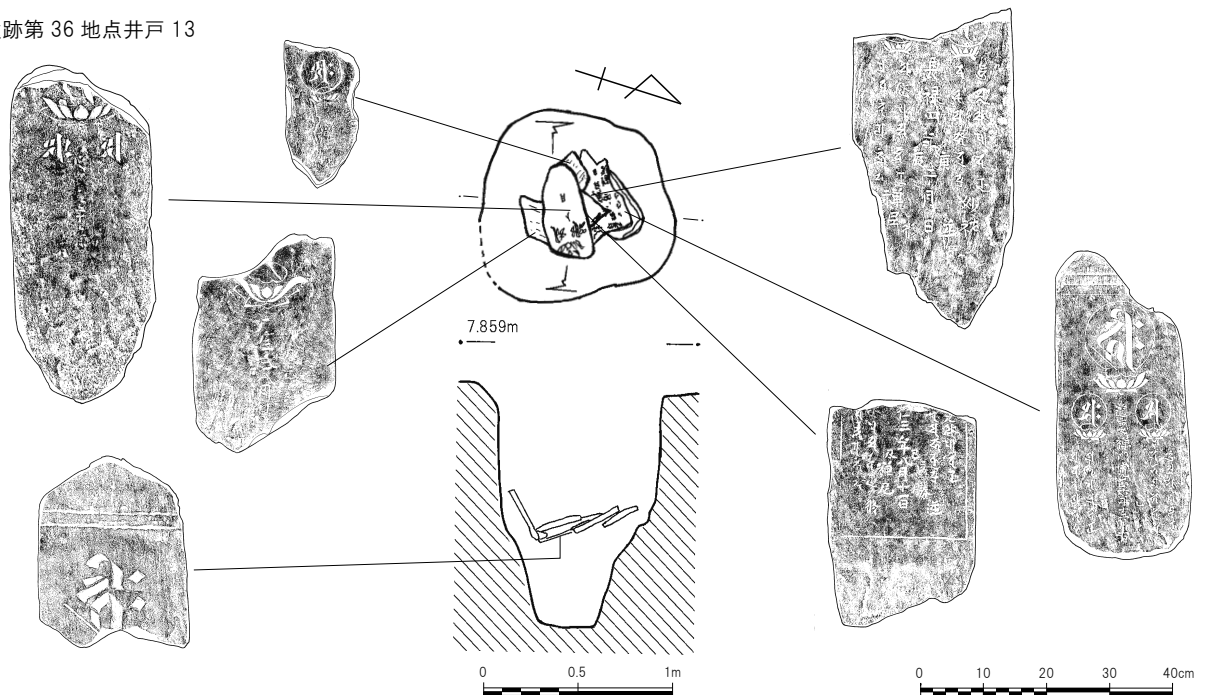
合併(2005年)後から現在(2020年)までのふじみ野市域の発掘調査での出土板碑は増え続け106基の到達である。最多は本村遺跡である。報告書に掲載した主尊・年号などが刻された断片も含め66基を数え全体の62%である。古道に近い掘立柱建物跡周辺の井戸遺構等から出土する傾向が読み取れる。次に長宮遺跡の16基、出土は長宮氷川神社東側に集中する。特に2011年調査の36地点の井戸覆土中層から7点の板碑が一括出土した(第63図)。この内5基の紀年銘が判読できるが、最古は暦応3年(1340)、最新は応仁3年(1469)と年代の幅は129年の隔たりがある。他に大井氏館跡遺跡から11基、神明後、川崎、松山遺跡からは各1基ずつである。滝遺跡内からは過去に2基が出土。今回不時発見で確認された地点から100m南東部の新河岸川寄り、小字丸橋内の8地点からの出土である。本報告の8基を加えると滝遺跡からの出土板碑は10基を数える。

さて、ここで出土遺構をみると井戸、地下式坑、溝の順での出土だが、本村遺跡、長宮遺跡共におよそ7割は井戸内から占める。本調査例や長宮36地点の調査例にみるまでもなく板碑の紀年銘から井戸の使用年代に比定し得ないところである。板碑は造立からある特定の期間のみに本来の意味があり、紀年銘より時間を経て不要な板碑を完全に埋まりきらない井戸に投棄、廃棄されたのである。意識的に井戸に投

滝 3 丁目市道ガス管立会



長宮遺跡第 36 地点井戸 13



第 63 図 滝三丁目市道ガス管工事立会出土遺物 (1/6・1/8)、長宮遺跡第 36 地点井戸 13(1/40)、出土遺物 (1/12)

棄した事象である。

合併後 15 年余の発掘調査で 1981 年の板碑基礎調査に匹敵する板碑が出土したこともふまえ、鑿痕跡の情報等も洗い出すなどの製作技法にも一歩踏み込んだ「出土板碑の集成」がすみやかに手がけられることを期したい。

(坪田幹男)

引用・参考文献

「埼玉県板石塔婆調査報告書」(1981 年) 埼玉県教育委員会

上福岡市史「資料編第 2 巻古代・中世・近世」(1997 年)

市史調査報告書第 21 集 「新河岸川・福岡河岸の民家」(2003 年)

// 18 集 「上福岡の板碑」(2000 年)

大井町史料第 10 集 「大井町の板碑」(1981 年)

第 6 回特別展図録「発掘される板碑」(1995 年) 毛呂山町歴史民俗資料館

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 12 集「市内遺跡群 11」(2014 年)

坂詰秀一 1996「板碑研究の一視点」『研究紀要第 2 号』毛呂山町歴史民俗資料館

宮瀧交二 1992「板碑の廃棄に関する基礎的検討 (一)」『研究紀要』第 9 号 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

第 35 表 滝遺跡出土板碑観察表

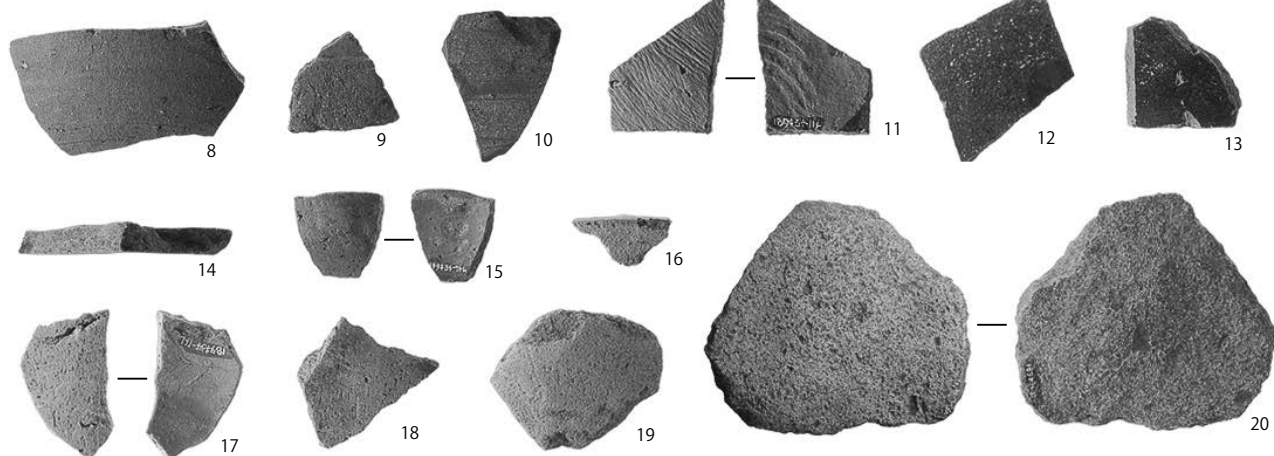
※表の構成は「埼玉県板石塔婆調査報告書」に準拠した。	参考資料 4	参考資料 3	参考資料 2	参考資料 1	図版No.
	阿 3 	阿 		阿 1 (欠) 	主 尊
	(欠)	(欠)		修 逆 妙心禪尼 大永六年 十一月吉日	銘 文
	無	無	無	無	枠線
	[74.0]	[28.7]	[18.8]	[38.6]	高さ
	29.5	19.5	[8.7]	15.9	上幅
	29.9	—	—	15.2	下幅
	3.4	2.7	2.3	2.1	厚さ
	一部欠損	破片	破片	一部欠損	形状
	吉野家屋敷内畑より出土 銘、摩滅か、削消か? 鑿痕顕著 鑿幅 14 mm 左↓右↑(基部左↓右↑)	鑿幅 13 mm 右↓左↑	裏面鑿痕顕著 鑿幅 15 mm 左下↓右上↑ 断片、他に破片一有り	裏面鑿痕顕著 鑿幅 13 mm 右↓左↑	備考
				1526	西暦

4	3	2	1	図版No.
□	阿 3 (欠)  (欠) 宝徳三年□月 禪門 (欠)	阿 1  辰 応永十九年九月 阿闍梨	阿 3  淨華禪門 文明五年 十月二日	主 尊
形状設定線有	無	画面設定線有	形状設定線有	枠線
[24.5]	[30.0]	50.7	58.2	高さ
12.5	20.3	18.5	17.5	上幅
12.0	21.4	18.5	17.4	下幅
2.3	2.5	2.3	1.8	厚さ
破片	破片	一部欠損	完形	形状
土坑 5 の深掘り出土 鑿幅 9 mm 左↓右	土坑 5 の深さ 65 cm より 出土	土坑 5 プラン上より出土 裏面に鑿痕顕著 鑿幅 11 mm 左↓右↑	土坑 5 (井戸) の深掘り 下層より出土 鑿幅 12 mm 右下↓左上↑	備考
	1451	1412	1473	西暦

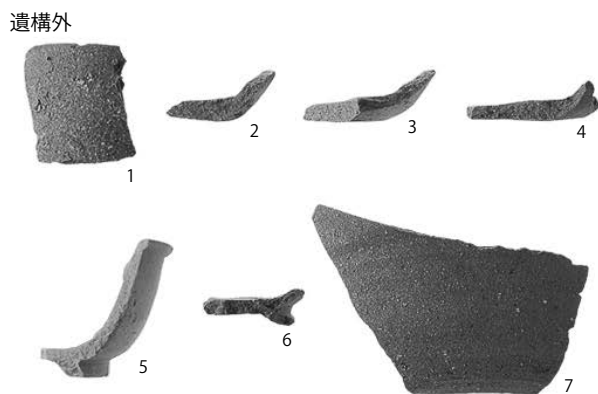
※他に銘・線無の石製品(板碑片)一点が土坑 12 から出土している。計測値中の「」は現存値で、単位は cm である。



滝遺跡第 34 地点トレンチ 8



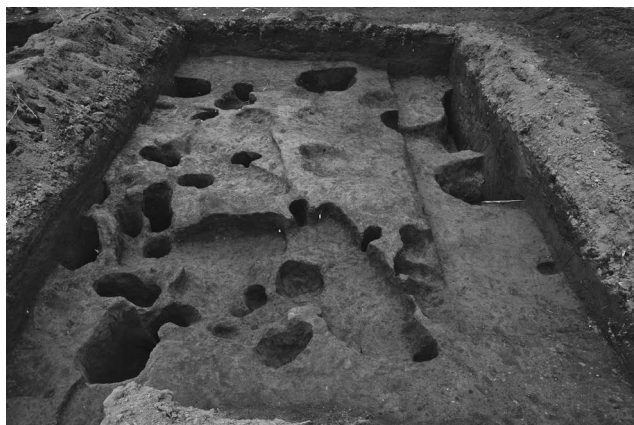
滝遺跡第 34 地点出土遺物



遺構外



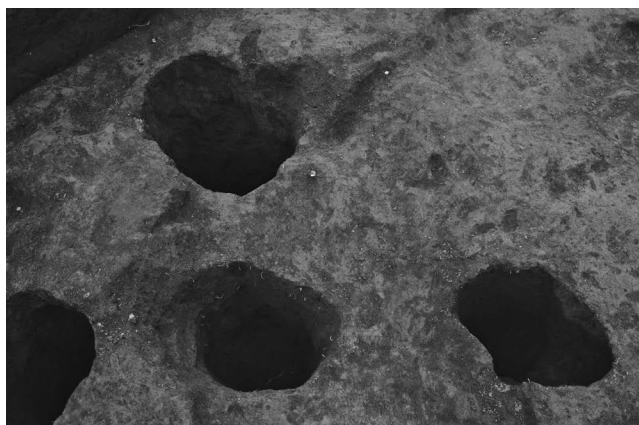
滝遺跡第 35 地点トレンチ 1 遺構検出状況



滝遺跡第 35 地点調査区全景



滝遺跡第 35 地点本調査遺構検出状況



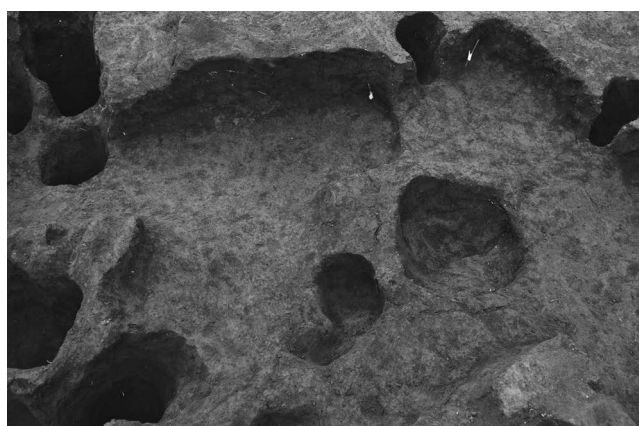
淹遺跡第 35 地点土坑 6



淹遺跡第 35 地点土坑 7・8・14



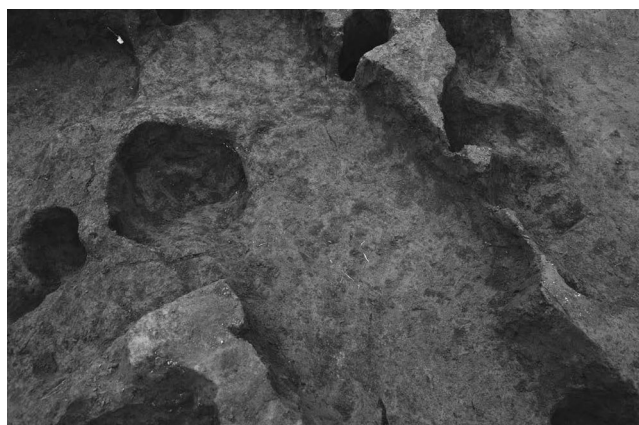
淹遺跡第 35 地点土坑 9



淹遺跡第 35 地点土坑 10



淹遺跡第 35 地点土坑 10・11



淹遺跡第 35 地点土坑 11



淹遺跡第 35 地点土坑 13 遺物出土状況



淹遺跡第 35 地点土坑 13



滝遺跡第 35 地点土坑 14



滝遺跡第 35 地点土坑 15



滝遺跡第 35 地点板碑 2 出土状況



滝遺跡第 35 地点板碑 3 出土状況 1



滝遺跡第 35 地点板碑 3 出土状況 2



滝遺跡第 35 地点土坑 12(地下式抗) 完掘

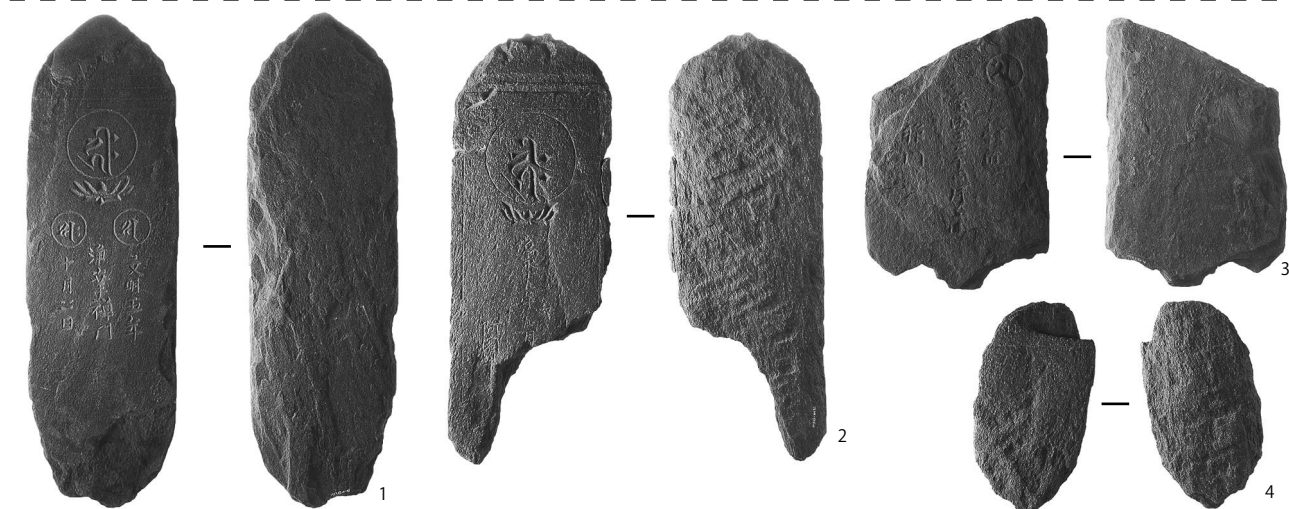
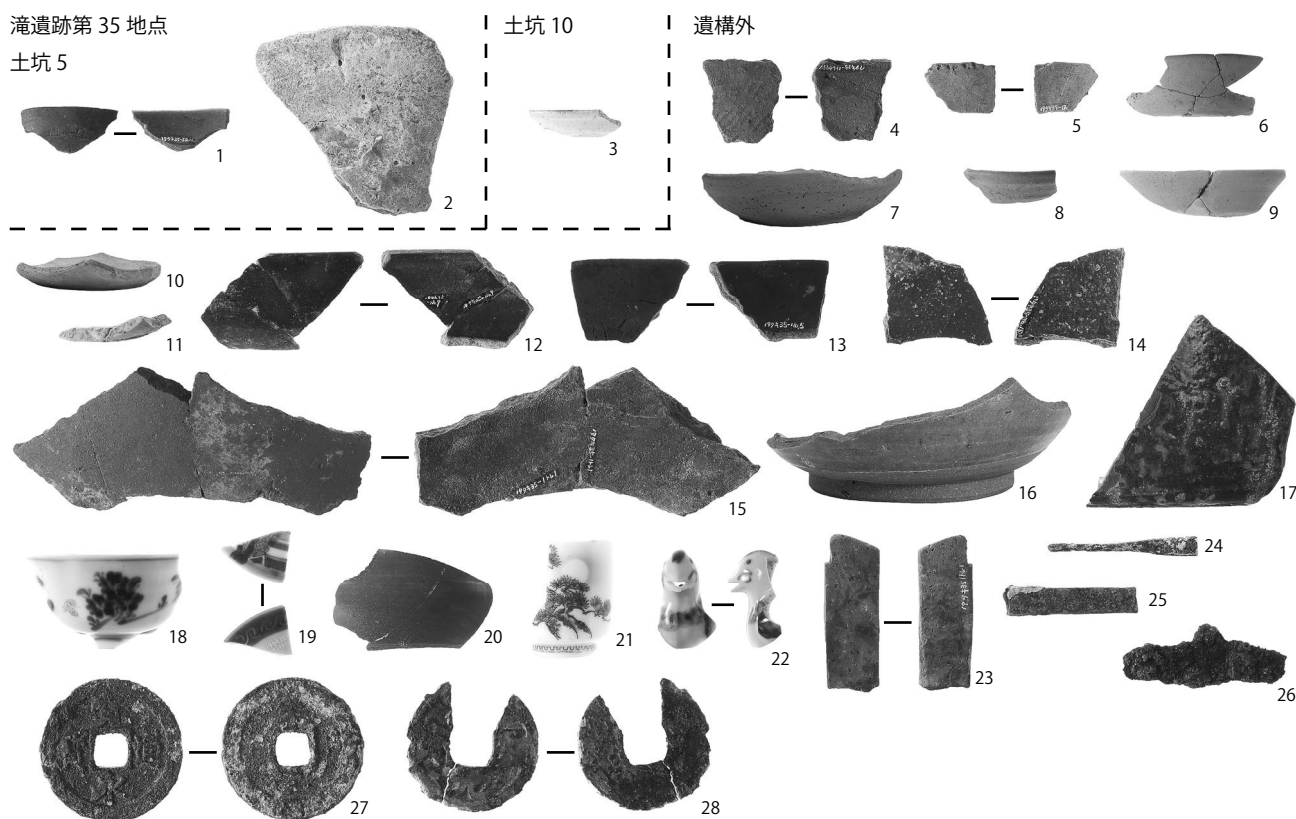


滝遺跡第 35 地点調査風景 1



滝遺跡第 35 地点調査風景 2

滝遺跡第 35 地点
土坑 5



滝 3 丁目市道ガス管立会

